

年 組 名前:

**脱炭素車レース参戦続々**

**実用化へデータ収集**

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量が実質ゼロの燃料を使った脱炭素燃料車でのレース参戦が国内自動車大手で相次いでいる。既存エンジンの構造を活用できるのが利点で、エンジンを使わない電気自動車(EV)や燃料電池車(FCEV)と併せて実用化を模索。レースでのデータ収集にいそむ。

脱炭素燃料は「カーボンニュートラル燃料」と呼ばれ、食用油やトウモロコシなどから作るバイオ燃料やCO<sub>2</sub>と水素による合成燃料などがある。走行時にCO<sub>2</sub>を排出するが、作る段階で大気中のCO<sub>2</sub>を回収するため、排出量は差し引きで実質ゼロになる。

日産自動車は6月初旬、富士スピードウェイ(静岡県小山町)で行われる24時間耐久レースに参戦する脱炭素燃料車を公開した。スポーツカーの新型「フェアレディZ」をベースとし、使用済みの食用油や木材チップを燃料に活用した。

トヨタ自動車とSUBARU(スバル)は、今年から耐久レースに合成燃料を使う新

車面を走らせている。トヨタの豊田章男社長は、日産の参加について「日本の自動車業界は日産とトヨタがライバル関係で盛り上げてきた。大変心強い」と歓迎した。マツダもミドリムシ原料のバイオディーゼル燃料などを使った車面でレースに挑戦している。

脱炭素燃料車は、エンジンが不要なEVやFCEVの普及で売り上げ減が見込まれる部品メーカーの雇用維持や事業継続に貢献するとの期待がある。日本自動車工業会は、顧客に多様な選択肢を用意して脱炭素化に取り組む重要性を訴える。

ただ脱炭素燃料の供給網の確立や製造コストの低減が課題だ。東海東京調査センターの杉浦誠司シニアアナリストは「脱炭素燃料車もEVもまだ課題は多い。今はあらゆるものを試していく時期だ」と指摘する。

日産自動車の「フェアレディZ」をベースにした脱炭素燃料を使う車両  
|| 静岡県小山町(6月)



(2022年7月17日付 山梨日日新聞5面)

問1

脱炭素燃料車と電気自動車の違いを、教えてください。

.....

問2

二酸化炭素の排出量が実質ゼロの「カーボンニュートラル燃料」は、何から出来ていますか。

・バイオ燃料 : .....

・合成燃料 : .....

問3

国内自動車大手は、なぜ、この取り組みに力を入れていると思いますか。

.....

.....

.....